



 KAWAZU
CONSTRUCTION CO.LTD



感謝と熱意を込めて
創業 100 周年



河津建設株式会社

大正 下田で材木商から建築業へ

1914	3年	河津木材舗と称し下田町旧岡方村に創業 創業者・河津市次郎、時に30歳
1915	4年	河津町湯ヶ野天川に湯ヶ野製材工場操業
1918	7年	
1919	8年	下田町旧岡方に製材工場、倉庫、事務所などを建設拡大
1920	9年	製材業のかたわら建築請負業開始
1921	10年	屋号を『河津組』と改め、建築・土木請負に本格的に進出
1923	12年	
1925	14年	河津市次郎が下田町議会議員になる（以来15年間町政に尽くす）



創業者・河津市次郎

南豆馬車鉄道設立（蓮台寺—武ヶ浜間）

下田南高等学校開校

関東大震災、亀戸事件、甘粕事件、虎の門事件
開国70年、パンクロフト米大使が下田訪問

大正3年頃の湯ヶ野製材工場（上河津の天川で水車で機械を動かした）

大正7年に創業した河津木材舗
今の静銀下田支店あたり大正10年頃の河津木材舗
全社員が和服、印半纏姿が多い湯ヶ野製材時代の河津市次郎
左は河津久義、中央は築地ミト

昭和Ⅰ 初期～戦時 拡充から統制会社へ

1927	2年	静岡県工事を初受注（下田橋建設工事）
1929	4年	
1933	8年	国工事を初受注（内務省国立済療所建築工事）
1934	9年	
1935	10年	文部省旧文理大下田臨海試験場工事受注 協力業者の会『山二会』発足
1936	11年	『静岡県土木建築工業組合』設立、河津市次郎が正副会長歴任
1939	14年	河津市次郎が静岡県議会議員になる
1941	16年	
1942	17年	戦時下により統制会社「東洋土木建築工業株式会社」に吸収合併 製材部門も統制会社「静岡県木材会社」に吸収。『河津組』休業
1945	20年	河津 正治、東洋土木建築工業（株）入社

昭和8年、国工事の初受注、国立済療所
当時の姿で南伊豆町に今も残る下田町役場新庁舎が落成
東京航空輸送、東京-下田間の定期航空路開設
世界恐慌はじまる

下田港開港80周年記念、第1回「黒船祭」挙行

二・二六事件、綏遠事件、西安事件
第二次世界大戦始まる、ノモンハン事件
南方作戦発動、太平洋戦争（大東亜戦争）始まる

終戦

昭和初期、城山公園から稻生沢川を望む
写真中央奥の白柱が県工事初受注の下田橋

昭和Ⅱ 復興～高度成長 近代化と飛躍

1948	23年	政令により『東洋土木建築工業（株）』解散 『河津木材建設工業株式会社』資本金120万円で発足 初代社長・河津市次郎が勇退
		河津正治が第2代社長に就任。河津敬が専務就任
1949	24年	建設業法施行により知事登録（い）393号を取得
1950	25年	河津尚が常務就任 資本金500万円に増資
		河津市次郎が下田町長に当選、1期務める
1953	28年	建築士法施行に伴い一級建築士事務所登録



第2代社長・河津正治

帝銀事件

湯川秀樹がノーベル物理学賞受賞
朝鮮戦争始まる

NHKがテレビ放送を開始

		改称『株式会社河津組』とする
1954	29年	起重機船「第1河市丸」建造。その後各種船建造し15隻保有する 松崎漁港、伊浜漁港など港湾工事に進出 国道135号工事、日本道路公團から受注 【創業40年】
1956	31年	初代社長・河津市次郎が逝去、享年71歳
1958	33年	焼津作業所開設。その後営業所に昇格 狩野川台風災害復旧工事に携わり中伊豆地区進出、郡外工事の基礎となる
1959	34年	河津正治が下田建設業協会 会長に就任 焼津漁港改修、沼津港改修など港湾工事に本格進出
1961	36年	沼津市千本に『沼津支店』開設。河津尚常務が支店長に就任
1962	37年	
1963	38年	資本金1000万円で『下田生コン』設立 【創業50周年】
1964	39年	
1965	40年	郡下林道工事から郡外進出。千頭林野工事に進出 榛原郡本川根町に大間作業所開設
1966	41年	資本金1000万円に増資、沼津支店を沼津市岡の宮に新築移転
1967	42年	下田市中村に社員寮を建設
1968	43年	下田建設協同組合が認可発足 下田市鍋田に社員寮を建設
1970	45年	資本金1500万円に増資 須崎御用邸工事を宮内庁から受注
1971	46年	東京営業所開設
1972	47年	西伊豆バイパス田子トンネル工事を受注 河津正治が静岡県建築士会会長に就任 日本建築士会連合会理事にも就任
1973	48年	河津正治、静岡県建設業協会副会長に就任 下田市中村に独身寮を建設 資本金2000万円に増資 起重機船第8河市丸建造 建設業法改正で知事許可(特定)48-第3250号を取得 現・本社社屋落成。 【創業60周年】 。法人組織25周年 静岡事務所を開設 焼津営業所を移転新築
1974	49年	資本金500万円で河津企業株式会社を設立



右 河津正治
中央 河津 敬
左 河津 尚

焼津の第五福竜丸がビキニ環礁の水爆実験で被爆

経済白書が「もはや戦後ではない」と規定
狩野川台風

伊豆急行の伊東一下田間全線完工
12/9、伊東駅で発車式、12/10、営業開始
三宅島大爆発、島民、東海汽船で下田町へ避難
伊豆下田農協設立

東海道新幹線・名神高速道路・首都高速道路
相次ぎ開通
東京オリンピック開催

下田町消防署庁舎落成、南豆衛生プラント落成

日本万国博覧会(大阪万博)開催

須崎御用邸が完成

札幌オリンピック、あさま山荘事件、沖縄県復帰
中華人民共和国と国交正常化(台湾断交)

※地震発生は5月9日
08時33分27秒。震源
は石廊崎沖の南南東
35km。賀茂郡南伊豆
町で震度5を記録。山
崩れなどが多数発生し、
死者30名、全壊134
棟など甚大な被害。

伊豆半島沖地震発生(M6.8)



昭和36年、沼津支店を開設



昭和48年完成した本社社屋



昭和38年からは港湾工事に本格進出
写真は焼津漁港



昭和40年、千頭林野工事に進出
写真は榛原川大札難治山工事

昭 和 Ⅲ 一過性の好景気 河津建設に新生

1975	50年	資本金5000万円に増資 『株式会社河津組』から『河津建設株式会社』 に4月1日に改称する
1976	51年	
1977	52年	下田市稻生沢川激甚災害特別緊急事業復旧工事を受注
1978	53年	

豪雨により南伊豆の道路寸断、観光客船で脱出
河津地震(M5.4)

伊豆大島近海地震(M7.0)。天城街道(国道414

1979 54年 沼津支店を沼津市大諏訪に移転新築
起重機船「第3河正号」建造

河津正治が藍綬褒章を受章

1981 56年 河津市元が取締役に就任

1982 57年 河津正治が日本建築士会連合会 副会長に就任

1985 60年 河津正治が静岡県建設業協会 会長に就任

1986 61年



昭和54年に建造した「第3河正号」

1987 62年



平成9年に建造した「第10河市号」

1989 64年

号)東伊豆道路(国道135号)寸断される。死者23名行方不明2名
カーター米大統領が下田市を訪問

下田港防波堤基礎工事開始、9月7日起工式
静岡県下田総合庁舎、新築落成
伊豆大島三原山噴火、全島民避難
下田船渠解散決議、138人の従業員全員解雇。
労組が職場占拠
昭和天皇が崩御し、皇太子明仁親王が天皇に践祚する

平成世紀を越えて 新たな歴史の創造

1989 元年 河津正治が東京林業土木協会 副会長に就任

1990 2年 資本金1億円に増資
河津正治が静岡県建設団体連合会 会長に就任

1992 4年 河津正治が下田商工会議所 会頭に就任

1993 5年 河津正治が勲四等旭日小綬章を受章

1995 7年

1994 8年 河津正治が東京林業土木協会 会長に就任

1997 9年 起重機船「第10河市号」建造

1998 10年 河津市元が第3代社長就任
新東名高速道路工事を受注

1999 11年 ISO9001認証取得

2000 12年 伊豆縦貫自動車道工事を受注

2004 16年 河津企業株式会社を株式会社テクノワンに改称

2006 18年 河津市元が下田建設業協会 会長に就任
静岡県立下田高校校舎建築を受注

2007 19年 河津正治会長が逝去、享年85歳

2008 20年

2009 21年 沼津支店を新築

2011 23年 東日本大震災の復興支援として「第10河市号」など起重機船を塩釜港に派遣

2012 24年 河津市元が東京林業土木協会 副会長に就任

2013 25年 河津 尚相談役が逝去、享年84歳

2014 26年 【創業100周年】



第3代社長・河津市元

「平成」に改元

下田市民文化会館が開館

伊豆半島南部集中豪雨により国道414号寸断
湾岸戦争勃発

阪神・淡路大震災。東京で地下鉄サリン事件

長野オリンピック開催

静岡県立下田北高校と下田南高校が統合し下田高校として開校

3月11日、東北地方太平洋沖地震発生(東日本大震災)

東京スカイツリーが開業

2020年東京オリンピック招致決定



左上 平成18年、静岡県立下田高校校舎建築を受注。完成した校舎全景



中 平成10年、新東名工事を受注。写真は静岡市清水区の尾羽ジャンクション

左下 平成12年、伊豆縦貫道工事を受注。写真は沢地東改良工事

右 東日本大震災の復興支援に派遣した船舶

● 創業100周年を迎えて



代表取締役社長
河津 市元

初代・河津市次郎が伊豆下田の地に、大正3年材木商の商売を始めて、おかげさまでわが社は今年、100周年を迎えることができました。これもひとえにお客様、協力業者の皆様、代々の社員、地域の方々のご指導・ご支援の賜物と、心より感謝申し上げる次第でございます。

大正、昭和、平成を経た100年という歴史は、簡単に作れるものではなく、毎年、一年一年の積み重ねであり、その時の課題や問題を乗り越え、情熱をもって仕事を成し遂げて来た結果だと思います。

いつの時代も、社会環境や条件は変化しつづけますが、仕事への熱い思いや、技術者集団としての責任、使命感を基本に、これからも地域を大切にし、地域に貢献してまいります。そして、存在感のある企業として、お客様から親しみをもって「ありがとう」の言葉をいただける企業であり続けたいと思います。

私達社員一同は100年という歴史をしっかりと受け止めて「新生・河津建設」を創っていくこと、歴史のレールをさらに延ばしていくことに、情熱をもって挑み続けてまいります。

今後とも皆様方の変わらぬ末永いご指導、ご鞭撻を心よりお願い申し上げる次第です。

創業時の印半纏

藍色に染め上げ、篆書体の「材木」を白にはんのわずか藍をつけて抜き文字にした。職人気質がしのばれる。

創業時の社章「ヤマニ」

現在の社章

ヤマニの由来

創業者・河津市次郎が、小田原の生家を出、木挽きを職業とし、秋田県五城目町（五城目町とは、木材の集積地として有名な能代市南東に位置する人口2万人ほどの業界では有名な地）で、4～5年お世話になったご主人の恩が忘れ難く、その恩を子孫代々まで伝え、かつ自分の苦闘時代を思い出すために、ご主人の店のマークであるヤマイチに一本棒を加え、ヤマニというマークにしたと記してある。

社 是

産業貢献

わが社業は国土ならびに産業、生活の基盤を建設するにある。社業を通して社会に貢献する意義を認識し、わが社業の繁栄は社会の繁栄とともにあることを心得なければならない。

感謝報恩

わが社業の存するは、始祖ならびに先輩の英智と努力の結果であることを認識し、常に感謝と報恩の精神をもたなければならぬ。

誠実公正

社会と社業に対し常に、誠実と公正を第一義として信

全力精勤

社会と社業に全力をもって精勤しなければならない。

創造改善

激動する社会にあって社業の繁栄をはかるには与えられた職務に全力をもって精勤しなければならない。

親和協調

社業繁栄は全社員はもとより、その家庭を含めて総

礼節謙譲

礼節をわきまえ、謙譲の心をもつて社会に接すること

労働安全

労働災害は人道上また企業労働力確保の上から絶対に排除しなければならない。このためには労働基準法、道路交通法その他法令の遵守、道義の向上に務めることが要諦である。

● 平成の主な工事表彰 ●

受賞年	表 彰 先 名	工 事 名
平成元年	農林水産大臣	上賀茂地区治山工事
平成元年	運輸省第五港湾建設局長	下田港防波堤作業基地建設工事
平成 2年	農林水産大臣	漁港建設事業振興
平成 2年	運輸大臣	港湾関係事業振興
平成 9年	静岡県住宅振興協議会	静岡県住まいの文化賞 優秀賞
平成 9年	労働大臣	産業活動、関係事業場の産業安全水準の向上
平成12年	静岡県住宅振興協議会	静岡県住まいの文化賞 優秀賞
平成13年	林野庁長官	二本杉林道新設工事
平成13年	国土交通省中部地方整備局 静岡営繕工事事務所長	下田宿舎建築工事
平成15年	静岡県土木部長	国道414号橋梁補修(下部工)工事(鍋失高架橋)
平成16年	国土交通省中部地方整備局長	下田運輸総合庁舎耐震改修建築工事
平成16年	静岡県土木部長表彰	国道135号道路災害復旧工事(軽量盛土工)
平成17年	農林水産大臣	漁港漁場整備事業振興
平成17年	全日本建設技術協会	下田港海岸環境整備事業
平成18年	静岡県建設業協会	ホテル観音温泉増改築工事 最優秀賞
平成20年	静岡県総務部理事	下田地区新構想高等学校体育館棟建築工事
平成22年	林野庁長官	日向林道災害復旧工事
平成22年	関東森林管理局長	荻野入復旧治山工事
平成23年	静岡県交通基盤部長	国道135号(大浜橋)関連道路等臨時整備事業(橋梁補修)工事(上部工架替)
平成23年	静岡県経営管理部理事	下田警察署分館耐震補強建築工事
平成24年	関東森林管理局長	白田川治山工事
平成24年	国土交通省中部地方整備局 沼津河川国道事務所長	天城北道路日向地区道路建設工事
平成25年	静岡県建設業協会	泰平寺境内整備計画 最優秀賞
平成25年	静岡県交通基盤部長	国道414号国道橋梁補修工事(七瀧高架橋橋脚補強工)第5工区

100年の感謝をこめてこれからも皆さまとともに歩み続けます

事 業 - 拠 点

